

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	4071901591		
法人名	有限会社 マルミ産業		
事業所名	グループホーム マルミ		
所在地 (電話番号)	福岡県田川市伊田3764番地1 (電話)0947-46-4248		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成19年12月3日	評価確定日	平成19年12月14日

【情報提供票より】(平成19年11月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3 人	非常勤 6 人 常勤換算 6.5

(2)建物概要

建物形態	併設(単独)	(新築)改築
建物構造	木造モルタル 造り	
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4)利用者の概要(11月19日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	0名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 77.8 歳	最低 68 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	後野内科医院 後野歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

香春岳を右手に見ながら直進し、住宅街と田畑が点在する郊外にグループホームマルミがある。家庭的な雰囲気の玄関を入ると、広い廊下の奥に利用者と職員の楽しそうな会話が聞こえ、居心地の良い居間と食堂がある。管理者と職員は利用者とは対話することに重点を置き、利用者の思いや希望を把握し、プライドを損なわない優しい支援で、日々の生活を過ごしている。職員は、オーナーや管理者の介護サービスに対する考え方を深く理解し、利用者に質の高い介護サービスを実践し、家族の信頼も厚い。また、かかりつけ医や常勤看護師と家族で話し合い、「ターミナルケアの指針」を作成している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では改善点が4件あったが全職員の努力でほぼ改善出来ている。今後は「地域密着型の理念の作成」「市町村との関わり」「地域住民の協力を得て夜間を想定した避難訓練の実施」等の取り組みが望まれる。
重点項目	自己評価は二人の職員が意見を出し合って管理者がまとめて作成している。次回からは職員一人ひとりが自己評価を作成し、全体会議で討議し作成していくことが望まれる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	会議は家族代表、区長、民生委員、市職員、ホーム代表、職員などが参加し、利用者やホームの現状を説明し、理解してもらっている。今後は双方から問題提起し、運営に反映できるような意見交換会に発展していくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者や家族の要望は出来るだけ早く反映できるようにしているが、家族からの希望や苦情が少ない。今後は気楽に要望が言える環境作りをし、ホーム運営に反映できる体制づくりが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、神幸祭、夏祭り、敬老給食会、文化祭などの行事に利用者と職員が参加し、地域住民との交流が図られている。今後はホーム主催の行事に地域の方を招待したり、避難訓練などに参加してもらい、積極的に地域と連携を深めていくことが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が大切にしていることを職員全員で考え、職員自身の言葉で表現している。		地域に愛され地域の中でその人らしく暮らし続けることを柱に置いた理念を作ることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目に付きやすい場所に掲示し、理念の理解、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、敬老給食会、地域の祭りなどの行事に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、結果を踏まえ具体的な改善に取り組んでいる。		職員一人ひとりが自己評価に取り組み、評価の意義を認識し、改善に繋げることが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行われている。会議では、事業所の取り組みを報告し、それぞれの関係から意見が表出している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに、市の職員になってもらっている。		今後は、市の職員の研修、介護相談、家族教室、認知症の勉強会など、市と協働事業の取り組みを進めていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1月に開催される、グループホーム協議会主催の権利擁護に関する研修会に参加の予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム便りを家族へ送り利用者の暮らしぶりを報告している。健康状態は、面会時、もしくは電話で知らせている。金銭管理は小遣い帳を家族に送付している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート箱を設置している。意見、苦情などが起きた場合は、その都度出きる限り対応している。今後、家族会の結成など、意見が出しやすい環境を作ることが望まれる。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職を最小限に抑えるための努力をしている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の募集採用にあたっては、性別や年齢など基準にはしていない。事業所で働く職員の思いを尊重し、生き生きと勤務できるよう配慮している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	管理者は職員に対して、「利用者は人生の先輩」であり、思いやりを持って接するように指導している。		人権に関するビデオ鑑賞や、市主催の啓発活動に参加することが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート職員も含めて、職員の能力に応じた研修会の参加の機会を設けている。研修後は報告会を行い、全職員で共有できるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の他のグループホームと連絡または訪問をして交流している。職員同志の交流も検討中である。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居は、泊まり、日帰り、どちらも行っている。本人が安心し納得した上で入居できるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を、自分の家族のように思い、心配したりされたりする関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中でできるだけ一人ひとりの思いを汲み取る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランに対して職員の意見が気軽に出来る手段として、サービス提供状況等の確認依頼書を提出してもらい、家族の了解を得ながら、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行うが、変化が生じた場合はその都度検討し、本人と家族と話し合い見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院、美容院の送迎、商店街への買い物、ドライブなど、可能な限り本人、家族の要望に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望する昔からのかかりつけ医への受診の支援を行っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に係る指針を作成している。ターミナルケアを目指しているがどこまで看れるのか検討中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーを損ねないよう、職員の意識の向上を図っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ、希望にそえるように支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食味の味見、配膳、片付け、ちらし寿司やホットケーキ作りなど、利用者と職員と一緒に食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、月、水、金の午後13時半からだが、利用者の希望があればいつでも入浴可能である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙の得意な利用者の作品を飾ったり、地域の文化祭に出品したり、敬老給食会への参加、園芸の好きな利用者の菊や百合作りなど、楽しみや気晴らしの支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	伊田商店街、なじみのパーマ屋、衣料店、100円均一の店など、一人ひとりの希望にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。職員の見守りの方法を徹底し、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下、避難訓練を行っている。		地域の住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。また、災害に備えて非常用食料、毛布などの備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のこたつ、コーナーに置かれたソファ、テラスのベンチ、家庭菜園など、一人ひとりが居心地良く過ごせるよう居場所作りの工夫をしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真など、本人の馴染みの物が置かれ、居心地良く過ごせるよう工夫している。		